

9/13 開催 映画「笑いのたね」上映会&後藤誠子氏講演会
聴講者の方のご感想（一部抜粋）

○良かった点

- ・不登校ひきこもりのリアルな事例を見ることができたこと様々なケースがあることを知れたこと。
- ・心が回復していくドキュメンタリー、親や子も苦しくもがきながら、考えさせられたテーマでした。
- ・不登校やひきこもりで悩んでいる人は、自身が一番苦しいのだと思います。本人がやる気を起こすように導いてくれる人が周りにいることは幸福なことですね。
- ・身近なお話があってとっても分かりやすかった。深刻になりすぎずに話してくれた。
- ・不登校ひきこもりのリアルな事例を見ることができたこと様々なケースがあることを知れたこと。
- ・映画「分かったつもり」でいることや「自分たちには偏見がない」みたいなことは本当は間違いで、でも間違っていることに気付けること、認めて向きあえることが必要で大事であることなのかなと思いました。
- ・自分も同じ境遇で人の気持ちの分かる映画でした。
- ・実体験に基づいた生の声が聞けて良かった。分かりやすい理由でなくてもほんの些細な事柄の積み重ねがきっかけで誰にでも起こりえることだと気づくことができた。
- ・親としての心の持ち方が参考になった。（優しくあきらめる。子供の人生に親が介入しない）
- ・なかなかの家族の方を題材にはできないと思います。とても頼もしく感じました。
- ・全てをさらけ出してくれて共感できた。歌が心に響いた。元気が出たら欲が出るということがよくわかります。
- ・不登校の子供がいますが、本当にためになるお話有難うございました。
- ・実際に体験された生の声に、想いと力を感じました。ポジティブなところだけでなく、ネガティブなところも赤裸々に語ってくださって、本当にありがとうございました。
- ・そっと促しの支援の大切さ、認めてあげる大切さ、握った手をひきこもりの人たちが握り返してくれるような寛容さあふれる支援の大切さを知りました。

○改善してほしい点

- ・映画の中に、少しテロップやナレーターがあってもよいかなと思った。
- ・講演会の時間が短かったかな、もっとあっても良かったかな、と思いました。
- ・映画で伝えられていないことをもっと聞きたかったです。

○その他ご感想

- ・一番印象的だったのが、「やさしくあきらめる」この言葉はよく聞いていたのですが、子どもに対して言っていることだと解釈していましたが、誠子さんは自分のことも「やさしくあきらめる」とおっしゃってくれて、なんだか気持ちが楽になりました
- ・誠子さんの講演を通して、色々と感じて、生き方が楽になったり、自分に優しくなって家族への接し方も優しくなったり、ひいては、社会が皆んなにとって住みやすいものになれば良いなあ、と思いました。
- ・貴重な時間をありがとうございました。「やさしくあきらめる」お子さんが「ひきこもりじゃなくなったから、自分が幸せになったんじゃない」もっとたくさんの人に届けたい言葉だと思いました。今苦しんでいるご家族の皆さんにも届けたいと思います。
- ・成長とともに個々の人生になりますが、いつでも話し合える立場でいたいものです。
- ・ひきこもりを知るきっかけができてうれしいです。
- ・ひきこもり当事者の方の話を聞きたいと思いました。(知る努力をする上で、言ってほしくない話や当事者のかたから知ることができたら、相手を傷つけずに対することができないのではないかと思います。
- ・横手がY o t t e ・ C o t t oを開設したのは画期的だと思う。さらに活動が活発化し、ひきこもりの方が一人でも少なくなることをお祈りします。横手は誰でも生きやすく生活しやすい地域でありますように。
- ・「あなたはあなたのままでいい」男女、高齢者もそう思うようになってほしい。

○孤独・孤立に悩む人をなくすために必要だと思うこと

- ・動き出すためにも、孤独に悩む人や立ち止まっている人を黙って見守る社会であってほしい。
- ・学校や社会が変わっていく必要があると思います。なかなか難しいですが、「人が助け合う心」や「人をありのままに認めていく心の醸成」が必要だと思います。それには、今の日本では、生活のゆとりがないし、自分を棚に上げて人を非難する体質がまだまだ根強いです。誠子さんのような活動を地道に宣伝して、広めて行くしかないのかな、と思います。
- ・講演の中でお話されていましたが、「知ろうとする」方が地域が増えていくことが大切だと思います。そのためには、今回のようなフォーラムや情報を発信していくことが必要だと感じました。
- ・地域の見守り。話し相手、相談できる人、黙って話を聞いてくれる人、そういう場所が必要。
- ・あなたはあなたのままでいいと伝え続けること、考え続けること。聞こうとする気持ちを大切にすること。

- 親や地域の人々とそのかわりをもっとオープンにできればいいのではないかなと思う。
- 関心を持つこと、知る機会を持つこと。
- 焦らせないこと。その人自身の扉を無為に開けようとしないこと。
- 差別をしないで想いやることが大切だと思います。
- 気持ちが分かり合える人が必要。SOSを出すことは大切。
- つらい思いをしている当時者やその家族のことを社会のみんなに知ってもらいたい。
- 「自分を大切にすること」という哲学を多くの人が理解すること。
- このような会をもっと多くお願いします。